

本学図書館のスペシャル・コレクションより(5)

ニッポナリアと対外交渉史料の魅力

カロン、日本の言葉と習慣に精通して オランダの国益を守る

奥 正敬

徳川幕府が開かれ、やがて40年、ヨーロッパ諸国との国交を閉ざす鎖国体制が完成しようとする時期に、日本において自国の国益を敢然と守り通したオランダ人がいた。この人物、名前をフランソワ・カロン (François Caron, 1600-1673) といい、徳川幕府との軋轢やオランダ商館に命じられた難題を解決して、幕末まで続く両国の交易の礎を築いたのである。

日本語を覚え、オランダ要人の通訳も

カロンは新教徒としてフランスを追われた移住者の子として、西暦1600(慶長5)年に当時オランダ領であったブリュッセルで生まれたとされている。ちなみに、この年の3月(旧暦、月表示以下同じ)、日本ではリーフデ号が「漂着」ではあったが、オランダ船として初めて豊後(現在の大分県)へ来航した。また、この年の9月には、同船の乗組員ヤン・ヨーステンらを保護する徳川家康が関ヶ原の合戦で勝利を収め、天下人としての地位を確立している。この頃から、家康の下でヨーステンらオランダ人が活動を始めており、カロンは日蘭交流の起源となる年に生まれたことになる。それから数えて19年後の1619(元和5)年、青年へと成長したカロンが調理人補助として平戸へ到着したのである。

カロンは平戸で生活する中で日本語を覚え、滞在中、日本人女性との間に6人の子供を設けていたとされている。こうした彼は、やがてオランダ商館の助手に昇格し、1627(寛永4)年にはオランダの東洋経営の現地責任者である、バタビア(現在のジャカルタ)総督の特使として訪日したピーテル・ヌイツ台湾長官の通訳の任務を帯びて江戸に上ることになる。

浜田彌兵衛台湾事件とその処理

ヌイツは將軍に謁見することがかなわず、台湾への日本人渡航を禁じさせる目的は達せられなかった。しかし、カロンの働きには満足して、彼を同行して台湾に戻った。

この頃、台湾ではオランダの統治が進み、台南に築かれたゼーランジャ城を基地として日本の朱印船貿易と対立する動きが出ていた。1625(寛永2)年には、渡台した長崎代官末次平蔵の持ち船の船頭浜田彌兵衛が関

税納入を拒否したため、オランダ側は貿易禁止措置をとり、浜田が怒りを持って帰国するなど日蘭間に摩擦が生じており、ヌイツの訪日はこの弁明のためでもあった。

ヌイツが台湾へ戻った翌1628(寛永5)年、浜田は貿易船2隻で再び台湾を訪れた。一旦は拘禁されたものの、遂にはヌイツを捕らえて部下である日本人拘禁者と交換し、カロンとオランダ人質を連れて長崎へ戻った。幕府は直ちにオランダ貿易の禁止やオランダ船の出航停止措置をとった。これに対し、オランダ側は江戸へ特使を派遣して釈明したが聞き入れられず、カロンらがバタビアへ出向いて協議し、1632(寛永9)年になってようやくヌイツを幕府へ引渡した。この措置によって、オランダ人質は解放され貿易再開の運びとなった。

幕府のカロン観

この経緯の中で、カロンがバタビアに赴くことは幕府側がオランダ側へ促したもので、その際幕府側からカロンについて、「彼は日本人同様日本の習慣を知り、またヌイツが台湾長官時代通詞として彼に仕えたから、日蘭間に生じた紛議に関し、一部始終を熟知している」(幸田成友訳著『日本大王国志』5頁)と、幕府の一時的な都合で「推薦」しているのである。

この年カロンは商務員に昇格して日本に戻り、商館長の江戸参府に随行して翌年の1634(寛永11)年、商館長の代理として3代將軍家光に拝謁した。この時、ヌイツの釈放を求めたが聞き入れられず、以後、3年連続して参府に同行し、1636(寛永13)年にオランダ灯籠を献上した際によりやくヌイツ釈放が認められた。この間、カロンは商館長を補佐し続け、幕府との折衝の中で幕閣からも一定の信頼を得ていたものと考えられる。

著作がヨーロッパで好評を博す

ヌイツに係わる一件が解決した1636(寛永13)年の秋、カロンは一つの報告書を書き終えた。これは、バタビア商務総監フィリップス・ルカルスゾーンが東洋各地の商館に現地調査を求めていたものである。カロンはこの報告書に、ルカルスゾーンに要求された項目である日本の地理、歴史、政治、宗教など国民生活全般に及ぶ内容を盛り込み、バタビアへ提出した。1645(正保2)年に、この報告書にヘンドリック・ハーヘナールという人物が補注を加え、「強き王国日本の記事」として“*Begin ende Voortgangh Van de Vereenighde Nederlantsche Geoctroyeerde Oost-Indische Compagnie*”(『オランダ東インド会社の創始ならびに発展』)という書物に収録された。